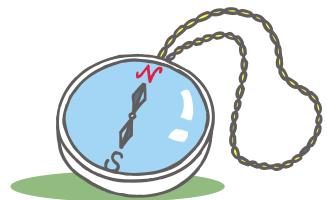


# 羅針盤



第 28 号

令和8年1月19日（月）

## ◆ 「鏡の法則」

「鏡の法則」という法則を生徒の皆さんには聞いたことがあるでしょうか。まずは、この法則の意味についてお話する前に、『倍返しの怪物』という外国の寓話を紹介します。それは、次のような話です。『昔、ある村に獰猛（どうもう）な怪物がいました。ある日、村と外の世界を結ぶたった一つの道を怪物がふさぎ、村人たちを悩ましていました。勇敢な若者たちが怪物を退治しようとしたが、全て失敗に終わりました。怪物はとても不思議な力を持っていて、どんなに強力な武器で攻撃しても、その2倍以上の力で対抗してきました。最初の若者は、木の棍棒（こんぼう）で襲い掛かり、その2倍の大きさの棍棒で叩きのめされました。2番目の若者は、炎で攻めかかりましたが、その2倍の熱さの炎を吹きかけられて逃げ出しました。3番目の若者は、鋼の剣で挑みましたが、長さも切れ味も2倍ある剣に歯が立ちませんでした。3人の若者の様子を見ていた村人たちは怪物と闘うことをやめて、不自由な暮らしを辛抱することとなりました。ある日、普段は村人たちから馬鹿にされていた若者が、「怪物を退治する方法がある」と言って、怪物に挑みました。若者が持っていたのはリンゴと水でした。若者はリンゴを一つ手に取り、怪物に近づいて「お腹すいてないかい。」と声をかけました。怪物は目をつぶるようにして、リンゴのにおいをかぎ、若者の震える手からリンゴをもらって口に放り込みました。そして、片手を上に大きく振り上げ、地面に握りこぶしを叩きつけました。怪物が手を開くと、そこには真っ赤でみずみずしいリンゴが二つありました。次に、怪物は水を飲みほして、もっと澄んでおいしい水が注がれた器を二つ出現させました。さらに、若者がにっこり笑って見せると、怪物も笑顔を2倍返してくれました。その様子を見ていた村人たちは大喜びしました。怪物は村の災いではなく、村の恵みとなったのです。』この寓話に登場する怪物は、「鏡」のように相手のとった行動をそのまま倍にして返しているだけです。この世の中も、同じようなことがあります。『おはよう』と挨拶をすれば、「おはよう」と返ってきます。無視をすれば、無視されます。つまりは、良いことも悪いことも自分に返ってくるということです。鏡を覗き見た時を思い返してください。自分の寝癖を直せば、鏡の中の寝癖も直る。笑いかければ、鏡の中の自分も笑う。自分の周りの人たちの言動や起こっている出来事は、全て自分自身を映し出しているという意味で、「鏡の法則」と呼ばれているのです。他人との関係性において、相手の行動に不満を感じる場合、それは自分の内面がそうさせている可能性があり、自分自身の言動や態度を見直すことで、相手との関係も改善されることを教えてくれています。鏡の中の自分を直したいのであれば、自分自身を変える。相手を直したいと望むのであれば、まずは自分自身を見つめなおすことから始めなければいけないということです。

また、村人がこの怪物を見ていたように、他人に対して簡単に自分だけの考えで決めつけてしまったりしていることはないでしょうか。私たちには、何か悪いことの原因を人のせいにする前に、自分の行動を見つめなおすといったことが大切なはずです。自分から心を開いたことで、相手も心を開いてくれた。こちらが相手の立場を理解したことで、相手も理解してくれた。より良い人間関係を構築していくためにも、この「鏡の法則」で自分自身を振り返る機会を持つてもらえればと思います。

